

発言者	発言内容
事務局	(資料1-1から1-3に基づき、「愛知県環境学習等行動計画の評価」について説明があった。)
千頭会長	愛知県環境学習等行動計画の評価について、疑問点や事実確認をしたいことなどはあるか。 無いようなので、次の議題について説明していただきたい。
事務局	(資料2に基づき、「平成29年度各主体別重点取組項目(目標)(案)」について説明があった。)
千頭会長	平成29年度各主体別重点取組項目(目標)(案)について、疑問点や事実確認をしたいことなどはあるか。
大鹿委員	高校生を対象とした環境学習事業についてよく分からないので、分かる範囲でいいので教えていただきたい。
事務局	<p>高校生の事業については、5校程度の高校を予定しており、1校あたり5人から10人程度のチームで応募していただこうと思っている。それぞれのチームが環境問題に関するテーマについて大学やNPOなどの専門家の支援を受けて調査・研究を行い、深めた知識をもとにそれらを一般の人に広めるための環境学習プログラムを作成し、それを実施するというものである。</p> <p>なお、調査・研究やプログラムの作成にあたってはファシリテーターについていただきガイドをしていただくが、発案は高校生にしていただこうと思っている。</p>
大鹿委員	応募してくる学校を想定しているのか。例えばSSHの学校や科学研究を行っている学校などに応募してもらいたいのか、それとも、それらとは関係のない学校に応募してもらいたいのか。
事務局	高文連等を通して科学部がある学校等に話をさせていただいている。
千頭会長	高校生が作成する環境学習プログラムとは、だれを対象とするものか。
事務局	10代や20代など高校生を含む若い世代を対象としたプログラムを作成していただく。

発言者	発言内容
新海委員	<p>環境省が「全国ユース環境活動発表大会」を開催しており、私たちは地区審査会をしているが、愛知県の応募はあまり多くないためこのような取組はありがたい。愛知県に頑張っている高校生が多くいることを知っている。狭い範囲だけでなく様々なサークルや部活に声をかけて、そのような高校生を抽出していただきたい。</p>
事務局	<p>ボランティア部や映像部等、様々な部活動にも声をかけていきたい。</p>
篠田委員	<p>県の取り組む重点取組に未就学児向けの指導者を養成する研修を実施するとあるが、環境カウンセラーやインタープリターとは違った分野で、幼児向けというのは確立した世界がある。具体的にどのような指導者を養成するのか。</p>
事務局	<p>指導者の養成というのは、幼稚園教諭や保育士等を対象に、園庭で自然体験の活動が実施できるようにしたり、そのようなプログラムを考えたりするといった研修を本年度から実施している。</p>
篠田委員	<p>幼児の環境教育に関する専門家を育てるといったものでなく、現場の先生方のレベルアップが目的ということか。</p>
事務局	<p>その通りである。</p> <p>(資料3、4に基づき、「愛知県環境学習等行動計画の改定の方向性」及び「行動計画の改定に係るスケジュール(案)」について説明があった。)</p>
千頭会長	<p>「改定」という文字から考えるに、場合によっては単なる時点修正だけでなく全面的に見直すこともあると思う。</p> <p>委員の皆様には、事務局が提示した4つのキーワードや、新しく置き換えてしまうのか、何かの部分にさらに付け加えていくのかなど、様々な視点から自由に御意見をいただきたい。</p>
新海委員	<p>来年度、環境省が環境教育等促進法に基づく基本方針の改正を行うと思われるが、それを踏まえずに愛知県は改定を進めるのか。踏まえる必要はないと思うが、愛知県らしいものにしていくと良い。</p> <p>現在の行動計画の評価が改定にどのように活用されているのかがわからない。確かに環境学習を取り巻く状況も重要だが、各主体について良い</p>

発言者	発言内容
事務局	<p>点と悪い点があるため、良い点を伸ばしていくのか、悪いところを改善していくのかについても考えていただきたい。</p> <p>また、環境教育を実施することが目的となっているように感じるが、環境教育は手段であると思う。例えば愛知県の地球温暖化や生物多様性等の施策の中に環境教育の手法がどのように入り込んでいくのかなど、分野的なものにどうアプローチしていくかといったところと、各主体の連携の強化というのが必要だと感じる。</p> <p>県の行動計画については5年を目途に見直すこととなっているため、環境省による改正の有無にかかわらず愛知県としては行動計画の改定を進めていきたい。環境省が改正をするようであれば、その内容を踏まえて行動計画の改定を行っていく。また、愛知らしさも取り入れていきたい。</p> <p>環境教育・環境学習は進んできており、例えば、多くの人が、地球温暖化問題があることを知っているが、それが行動に結びついていないのではという印象を抱いている。簡単なことであれば実施しており、それは良い点だと思う。しかし、手間やお金がかかるが将来のためにやったほうが良い行動までは進んでないというのが問題点だと思っている。その問題点を改善することを「行動の変革」として表現している。</p>
千頭会長	<p>委員の皆様には、行動計画の改定にあたり注意すべき点や踏まえるべき点について御意見いただきたい。</p>
浜口委員	<p>今回の評価を見ると、アンケートを取るときの評価指標が年度によって異なるというのが、良い評価を出そうとしているのではと読み取る人もいると思う。そのため、次の行動計画には評価を行うための指標についても盛り込んだほうが良いと思う。</p>
千頭会長	<p>市町村はそれぞれ環境基本計画を作成するときにアンケートを実施しており、その結果を見ると多くの市町村で環境行動の割合は下がっている。それをどのように評価するかで議論になる。</p> <p>市町村としては、県が実施したアンケート結果をどう思うか伺いたい。</p>
猪子委員	<p>県が実施したアンケート結果を見ると、市町村が実施する環境への取組は進んでいるが、県民の「ごみの分別」の実施率は減少している。多くの市町村において、ごみ減量化の取組が行われていることから推測すると、多くの県民がごみ分別の方法や排出ルールを十分に知らないのではない</p>

発言者	発言内容
島田委員	<p>かと思う。清須市では、いつでもごみの分別方法が確認できるようにするため、来年度よりアプリでの情報配信を始める。現在、電話で問い合わせを受けているものが、簡単に確認できるようになることで、ごみの分別等が習慣化し、アンケートの結果が改善されていくことを期待している。</p> <p>ごみの分別をするにあたっては、市町村の財政力が関係してくる。東郷町では、低コストでより住民がごみの回収をしやすい方法を重視している。そのため、アンケートの結果には各市町村の政策も関係しているのではないかと。</p>
橋本委員	<p>アンケート調査をみると事業者の回答率が低い。また、アンケート結果を受けて「多様な主体との連携・協働による効果的な学び」というキーワードが出ていると思うが、本当にアンケート調査の結果が実態に沿ったものかが疑問である。</p> <p>また、アンケートの対象から推測するに平成25年度と28年度では同じ企業が回答していると思われる。そうであれば、企業の体制は変わらないと思うので、この結果を鵜呑みにしてよいのか疑問である。</p>
百瀬委員	<p>「CSRにおける環境保全活動や環境学習の実施」とあるが、CSR活動は企業ごとに独自に実施するものであるため、県が求めるものと同じではないと思う。EPOC、名商ecoクラブもそれぞれ環境活動を通じて地域社会に貢献するという目標を掲げているが、それらと愛知県環境学習等行動計画は同じではないので、どのように企業の目標の設定や達成と愛知県が望むものであったり、学校やNPOと組むことであったりをつなげるのが難しい。この協議会に参加していれば、それらを盛り込まなければならないと思うが、それを他の企業に広めていく方法がない。企業にはやる気があり、その準備もあるが、どのように他の主体とつないだり、愛知県の学校教育に貢献したりできるのかという問題があり、それはマッチングとは違う。目的や効果の認識の共通化や、価値観の共通化をしていかないと、やっていると思っけていてもどこにも受け入れてもらえないといったことがあるのではないかと。企業の力を引っ張り出すといったことが見受けられないと思う。企業が持っている力や意欲、資源をどのようにこの計画の中で活かしていくのか再度考えなければならない。</p>
千頭会長	<p>現在の計画は、「全ての主体がそれぞれ環境教育に取り組みましょう、県全体としてはこうしたい」というものであるが、「各主体が持っている</p>

発言者	発言内容
篠田委員	<p>力をどのように引き出すか」といった計画が必要だということだと思う。</p> <p>愛知県全体に向けて1つの行動計画を作成するというのはかなり難しいので、行動計画にはすべての主体に共通する大きな柱を示し、各主体がどのように使うかをそれぞれ考えるとといったものにした方が良いのではないか。細かくすればするほど、大きな柱が見えなくなり、何をすれば良いのかわからなくなってしまふ。</p>
新海委員	<p>この行動計画のチャレンジは、各主体が力を伸ばしつつ組み合わせる結果、どのように生きるかといったことで、連携・協働を入れて施策を打っている。</p> <p>アンケート結果を見ると、連携・協働は難しく進みにくいとを感じる。</p> <p>大きな柱が重要であることも分かるが、狭く絞っても良いとも思う。「一人ひとりが考え行動を変革する」ことにつながる環境学習という方向性は良いが、その中でこの行動計画が具体的に何を実現するかということが明確な方が分かりやすいと思う。自分たちが環境教育に取り組んだことで起きた変化が見えると取組はより進んでいくと思うが、現在は雲をつかむように行っているので変化が見えにくく分かりにくい。また、それを単体でやるのか一緒にやるのか等の工夫は必要だが、学びは行動に結びつきにくい。具体的に愛知県の環境教育はこの部分にアプローチをしてこのように変えるといった目標を作り、下から積み上げるような行動計画でもよいと思う。市町村と県では役割が異なるので、市町村や企業がやりやすいような器を作るにはどうしたらよいかを書いてあると良い。</p>
千頭会長	<p>行動計画の改定を検討する4つのキーワードが挙げられているが、このキーワードは環境学習だけでなく多くの計画がこのキーワードに結びつく。そのため、このキーワードでは大きすぎるとも感じる。</p>
浜口委員	<p>行動計画の中で県民に求められていることがあるが、自分の身の回りを見るとそれを意識しているようには見えない。また、普段の生活の中で環境学習という言葉を目にするということもないため、もっと県民に環境学習や環境教育を身近に感じてもらうためにはどうしたらよいのかということが課題だと思う。</p> <p>行動計画に書かれている県民に求められていることが、県民は知らないという状態なので、県民に届くような行動計画や広め方を考えていく必要があると思う。</p>

発言者	発言内容
菅沼委員	<p>県民に行動を変えてもらいたいという思いは環境部のそれぞれの課が持っており、それぞれの事業を実施しているが、それによりどれだけ県民の行動が変わったのかという事は見えづらい。</p> <p>行動の変革で重要だと感じるのは学校教育であり、あらゆる年代で行動を変えるための努力をしており、高校生を対象とした事業だけがなかったため来年度は高校生を対象とした事業を考えた。しかしながら、多くの県民の方の理解や行動の変化につながるための効果的な方法が思い浮かばない。</p> <p>現在の行動計画にも盛り込まれているが、愛知県には力を持った企業やNPOが多くあり、そのような主体との連携・協働が愛知らしさであると思う。</p>
島田委員	<p>現在は高齢化が進んでおり、老人ホームやそこへの入所者が増えている。今後、中学生や高校生は、そのような人々に関わる機会が増えていくと思うため、そのような視点も踏まえて考えていただきたい。</p>
猪子委員	<p>1つの方向性として、成果が評価されやすいものにした方が良い。行動ではなく、習慣に変えていくところまでたどり着けると良い。</p>
松岡委員	<p>調査結果についての感想は、今年度から県の事業として研修や自然体験の機会を提供していただいていることで、幼稚園の関心が高まっていると思う。しかし、研修への参加率は増加しているが、小・中・高等学校と比べると低い。幼稚園は小規模が多い事や、子育て支援など様々な要請があり、取り組む余裕がないためだと考えられる。</p> <p>また、幼稚園等がアンケートに回答する時に、環境というものをどのようにとらえるかで結果が変わってくるのではないかと。</p> <p>行動計画に沿ってみると、幼稚園の環境教育は充実の方向に向かっていると感じられる。それがどのように行動につながっていくかだが、幼児教育における環境教育ということに絞って考えると、自然に親しんで守るべき環境や自然を十分に体験し、それを守ることが大事であることを実感するということが出発点になるため、それを育むことが一番の目的である。</p> <p>遠い将来ではなく、すぐに行動に結びつくような取組については、アンケート結果には出てきてはいない。ごみやリサイクルなどの活動を通じて子どもたちの意識や行動が変わっていくこともあると思うが、そうした取組も行っている。それらを意識化して啓発していくことが一つの課題だと感じた。</p>

発言者	発言内容
岩崎委員	<p>アンケート結果を見ると幼稚園では、協働に関する取組があまり進んでいない。幼稚園には余裕がないため、主体的に協働を呼び掛ける力は足りないが、他の主体から提案してもらえたと取り組めることは多い。</p> <p>愛知万博などのイベントへの参加により高まった意識が、最近薄れてきているように感じるため、契機になるようなイベントや運動がそれぞれの地域で行われるようになると、協働の機会も増えていくのではないかと思う。</p> <p>キーワードに「主体的で対話的な深い学び」「多様な主体の連携・協働による効果的な学び」とあるが、これは学び方の問題でありとても大きな話である。深い学びは永遠の課題であり、行動計画に結びつけるのは難しい。</p> <p>行動となると、より具体的な方が分かりやすい部分も出てくる。教育は学校が担っている部分が多いが、それをつなぐのは家庭である。自然の中で育つことでそれを大切にしようという気持ちが育まれると思うが、都市部に住んでいる子どもたちにその環境を与えるのは難しい。そうになると、教育しかないと行動計画が重要だと感じる。</p> <p>国が教育を変えるというが、その具体的な方法がわからない。そこで、愛知県環境学習等行動計画では具体的な方法を明確に書いてはどうか。</p>
大鹿委員	<p>調査結果を見ると学校での環境教育が進んでいるように見えるが、学校は選択肢に挙げられているような取組を行っていれば環境教育を実施していると感じているのではないか。</p> <p>愛知県環境学習等行動計画とあるが、環境学習と読むとそのイメージで読んでしまい、例えば企業は出前講座に行かなければやっていないように感じてしまうかもしれない。環境教育ではないかもしれないが、学校は地域の企業との関わりが必ずあり、様々なことを実施している。そのため、行動計画の名前を変えたほうが良いのかどうかも検討すると良い。</p> <p>次期学習指導要領では具体的な方法が示されていないため、地域ごと地域ならではのやり方を行動計画で示せると良い。特に、愛知県には様々な自然環境や産業の特色があるため、地域ごとのやり方や連携の方法を示せると良い。また、連携の方法は出前講座だけでなく、子どもを受け入れて話をすることなどもある。それらの情報が入ってくるような場を行政やNPOが用意するのか、また、子どもたちが広めていくのも良いかもしれない。</p>

発言者	発言内容
千頭会長	<p>行動計画の改定が何を指すのかということについて議論をする必要がある。</p> <p>地域に根差した環境学習は市町村が担う面が大きいと思うが、県がそれを行動計画の中でどのように支援するのか、補完するのか、先導するのかなど様々なことが考えられる。そのため、県の行動計画をどのようなものにしていくかを事務局で検討し、来年度の協議会で再度議論したほうが良いと思う。</p> <p>また、4つのキーワードがあるが、これらは環境学習だけでなく様々なことにつながっているものであり、環境学習だけで達成するものではない。</p>
百瀬委員	<p>何かを実施するにあたり、環境省のCO2見える化プロジェクトのように、行動の結果が数字で見えると取り組みやすいのではないかと。</p> <p>また、東京都が実施しているエコ検定のようなもので、全県民が楽しみながら環境に関する基本的なことを学べる機会があると広がるのではないかと。</p>
新海委員	<p>本当に学習が行動につながっているかということに観点をもって、それぞれの主体や地域が実施するのを応援するというのが県の立場で良いと思う。それを県だからこそできる仕組みにすることが行動計画に踏まえられれば良い。</p> <p>現在の行動計画は理念的で抽象的なことが多いので、具体的なものにすることでメリハリがついて良いのではないかと。</p>
岩崎委員	<p>教育や家庭は数字に慣れていないため、数値目標の立て方には気を付けていただきたい。</p> <p>環境はずっと続けていくものであるため、短期的なものにならないように注意する必要がある。</p>
千頭会長	<p>本日、委員の皆様には様々な意見をいただいたが、今後事務局として行動計画の改定をどのように考えて進めていくのかを教えていただきたい。</p>
事務局	<p>愛知県の他の施策に関する戦略においても、初めに理念的・総論的なものを作成し、改定においてテーマを絞ったものもある。どちらにもメリット・デメリットがあると思う。</p> <p>環境学習等行動計画についても、現在は理念的なものであるが、改定す</p>



発言者	発言内容
千頭会長	<p>るにあたってはテーマ性を持たせて作っていくのが良いと思う。そのため、来年度の第1回の協議会において行動計画のテーマや書き方の方向性について決めていきたい。</p> <p>また、委員の皆様には、県がどのような施策を行えば、それぞれの立場で持続可能な社会づくりを進めていきやすくなるのかをお伺いしていきたい。</p> <p>議題については以上とする。</p>